

◆自選十五句より

金谷洋次

ゆつくりと波音届くさくらかな  
天上に父の座ひとつ朴の花  
コロツケが良く売れ田端日の盛り  
寝ねて聞く波の近さや盆帰省  
子の話ばかりの妻と良夜かな  
長き夜や愛する者はみな静か  
近江へと辿る小舟や小夜時雨  
父の咳すこし遅れて母の咳  
働いて働いてけふ雪の茶毘  
父と子の校歌は同じ卒業す